

「内陸のフロンティア」を拓く取組

アナ： 「市長が語る 2016 三島」第 14 回の今日は、『「内陸のフロンティア」を拓く取組』についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 『「内陸のフロンティア」を拓く取組』と申しますと、壮大な事業がイメージされますが、どのような事業ですか。

市長： 東日本大震災の津波被害を受けて、静岡県では、内陸部の主要幹線道路のインターチェンジ周辺などを中心に、企業や住民の移転先となる受け皿整備や防災・減災と地域成長を両立させたまちづくりの実現を目指して、地域を指定して重点的に事業を進めています。この中で三島市では、住宅地や工業団地の整備など、6つの計画を進めています。

アナ： 津波の心配がない三島市では、他の地域から企業や住民を受け入れる側として整備を進めているということですね。それでは、具体的にどのような事業があるのか教えてください。

市長： まず、住宅地の整備についてご説明します。

1つ目は市山地区、大場地区、三ツ谷地区に優良田園住宅の整備を進めるものです。優良田園住宅というのは、従来の分譲地よりもやや広い敷地にゆとりのある居住空間を提案するものです。市山地区と大場地区については、すでに開発事業者が決まっており、まもなく造成工事がはじまります。

2つ目は北沢地区に133区画という大型の住宅地を整備するものです。民間事業者により、100年来の懸案だった亜鉛工場の跡地がしっかり土壌改良され、新たな活力を生み出す住宅地に生まれ変わります。

アナ： 新しい街並みに新しいライフスタイルが提案され、市外からも多くの方が移住されるというのは、楽しみですね。

市長： そうですね。それから、三島市への移住、定住者を増やしていくためには、働く場所を確保することが必要となります。そこで3つ目は、三ツ谷地区の約21ヘクタールの土地に市内で3番目となる工業団地を整備していきます。今年10月頃から造成工事が始まり、平成30年秋の完成を予定しています。

アナ： 確かに、働く場所は大切ですね。

市長： 企業の求める面積に応じて区割りを決めていきますが、現時点では8区画を予定していて、約1,000人以上の新規雇用が生まれると期待しています。

それから、4つ目は玉沢の三島総合病院の隣接地にも、医療・健康・福祉分野を中心とした企業誘致を進めています。

5つ目は大場地区、三島南高校の南側約19ヘクタールの土地について、利活用

を検討しているものです。ただし、こちらはまだ地権者の皆さまの中で合意ができていないわけではありません。まずは地元の皆さまがどう考えるか、調整を図っている状況です。

最後に6つ目は、昨年12月に三島スカイウォークと同時にオープンした農業観光関連施設です。こちらはすでに事業がひと段落ついていて、今後は都市計画法上の手続きを経て、観光エリアとしての位置づけをしていきます。飲食店やお土産屋がもっと欲しいという意見がありますが、そういうものも立地できるようになっていくと思います。

アナ： とても大きな事業が、民間事業者の手で行われているということですね。

市長： そうですね。それがとても重要なことで、これらはすべて地権者の合意のもと、行政が掲げる事業コンセプトに賛同いただける民間協力事業者がいることで成り立っている事業です。

アナ： 市長がガーデンシティの取組みでよくおっしゃる、「市民協働のまちづくり」がここでも行われているということですね。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。